

特別シンポジウム

「化学物質に関わる環境政策の現場から」

9月26日（木）14:00～17:00 A会場（大山記念ホール）

概要と目的

官民学の研究者および環境省の化学物質評価・管理に関わる部署の担当者から、

1. 現在の化学物質関連の環境政策について
2. 環境毒性学会に期待すること・すべきこと
3. 期待される環境毒性研究について

などを15分程度で話題提供をいただき、その後、パネルディスカッションを行う。

プログラム

- 14:00～14:15 開催趣旨説明、
環境省推進費および環境行政に期待すること～国研の立場から
山本 裕史（（国研）国立環境研究所環境リスク・健康研究センター）
- 14:15～14:30 環境省推進費および環境行政に期待すること～大学研究者の立場から
大嶋 雄治（九州大学 農学研究院）
- 14:30～14:45 日化協の取り組み～LRIの紹介
稲若邦文（日本化学工業会）
- 14:45～15:00 化学物質審査規制法について～現在の技術的課題と新たな研究への期待
櫻井希実（環境省化学物質審査室 室長補佐）
- 15:00～15:15 農薬取締法に基づく農薬登録基準設定について
～水産動植物の被害防止に係る農薬登録基準の設定
上迫大介（環境省農薬環境管理室 室長補佐）
- 15:15～15:25 休憩
- 15:25～15:40 化学物質のリスク評価に向けた課題の検討（内分泌かく乱作用、PPCPs及び複合影響に関する検討状況）
山崎邦彦（環境省環境保健部 環境リスク情報分析官）
- 15:40～15:55 化学物質の環境リスク初期評価について
鈴木克彦（環境省環境リスク評価室 室長補佐）
- 15:55～16:10 最近の水環境行政の動向について
～水質汚濁に係る環境基準、生物応答試験を用いた排水の評価手法
伊藤史雄（環境省水環境課 課長補佐）
- 16:10～17:00 総合討論（パネルディスカッション）

司会：山本 裕史（国立環境研究所）